



イーレックス株式会社[9517]

中期経営計画

(2024年3月期～2026年3月期)

1

今後3年間の位置付けと2030年目標について

2

新中期経営計画

1. 今後3年間の位置付けと2030年目標について

今後3年間の位置付けと2030年目標について

- 今後3年間で海外成長戦略の準備期間と位置づけ、新局面への対処と海外事業拡大に注力
- 2030年に売上高5,100億円/経常利益250億円を目指し、取組みを加速する

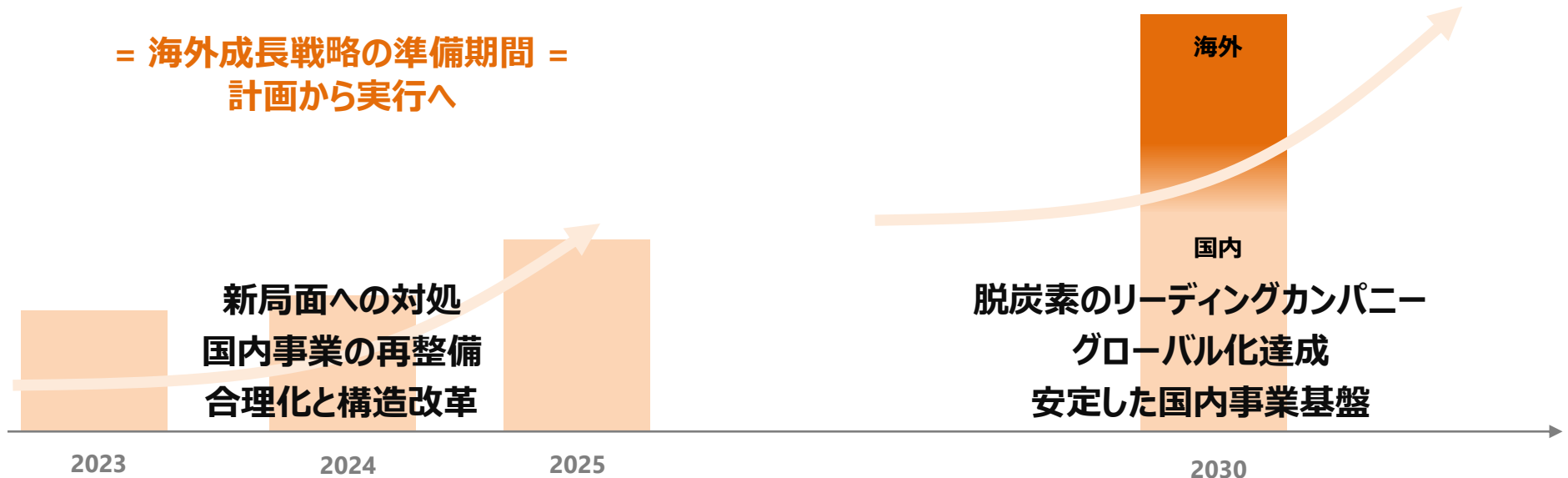
FY2023 - FY2025

- ◆ ウクライナ以後の変化への対処
- ◆ 海外PJ推進と全社でのグローバル対応
- ◆ 太陽光、風力など他再エネの取組

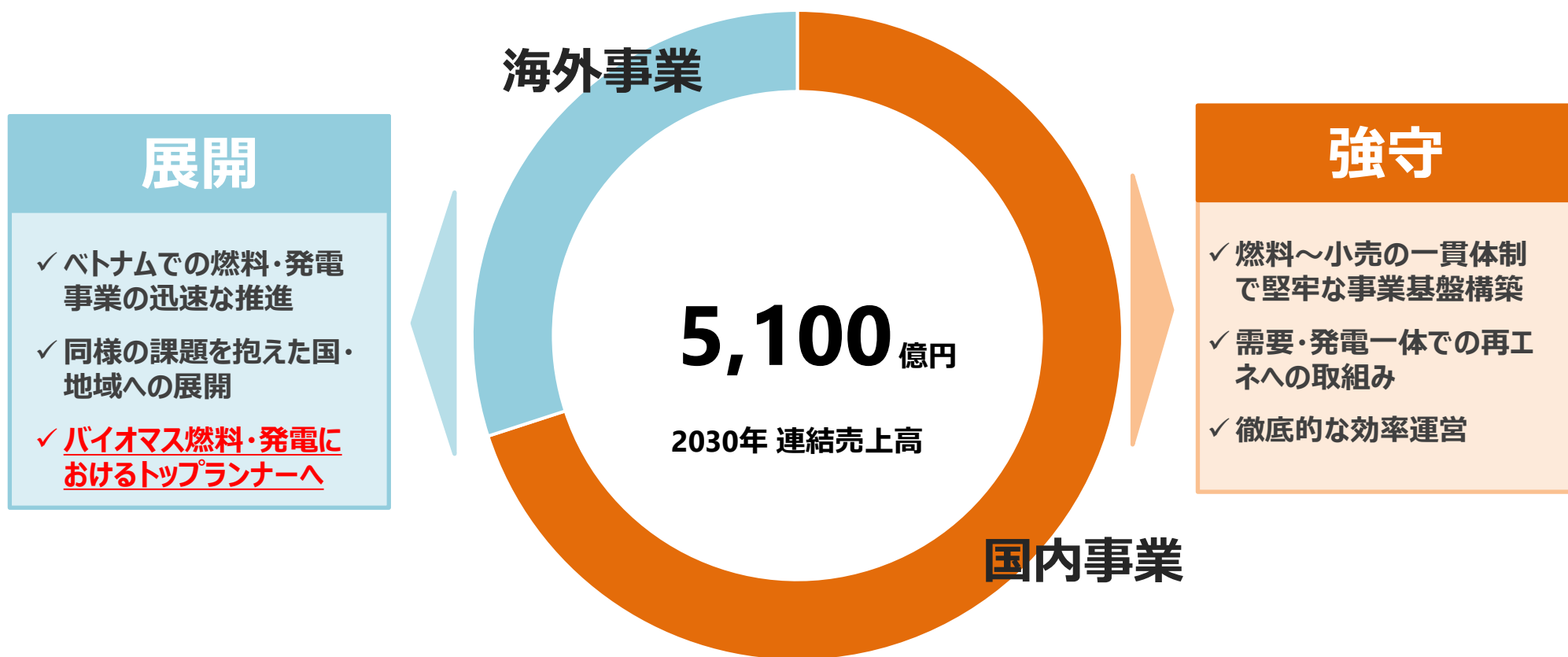
FY2030

- ◆ バイオ燃料のイノベーション、取扱高 1,000万t/年～
- ◆ CO2削減貢献量 2,500万t/年の達成
- ◆ 海外事業の拡大と国内事業の更なる強化

= 海外成長戦略の準備期間 =
計画から実行へ



- 2030年度の海外売上高比率は連結売上高の3割強となる見通し
- 国内の「**強守**」により堅牢な事業基盤を構築しつつ、海外および新領域への「**展開**」を推進する



- 2030年2,500万t/CO₂の削減貢献を軸に、2050年カーボンマイナスへの挑戦
- “脱炭素事業者”への転換と、バイオマス燃料事業の確立

Decarbonize

2050

2030

2025

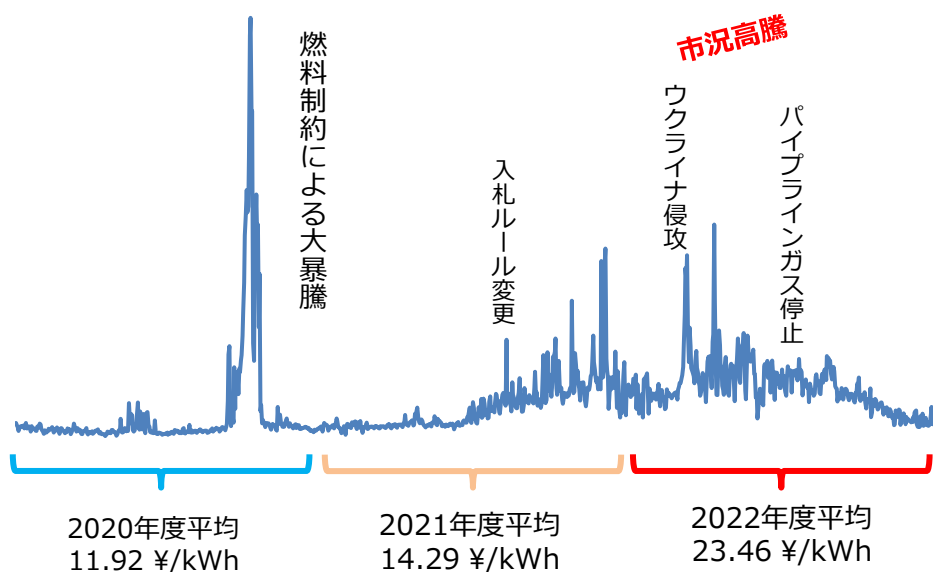
- ・自社温室効果ガス排出ゼロ
- ・水素社会実装への貢献
- ・カーボンマイナスへの挑戦

- ・排出削減貢献量2,500万t/年
- ・脱炭素に資するR&Dの推進
- ・需要・発電一体での再エネ推進

- ・小売事業での排出ゼロ実現
- ・海外での再エネ開発
- ・国内バイオマス事業の拡大

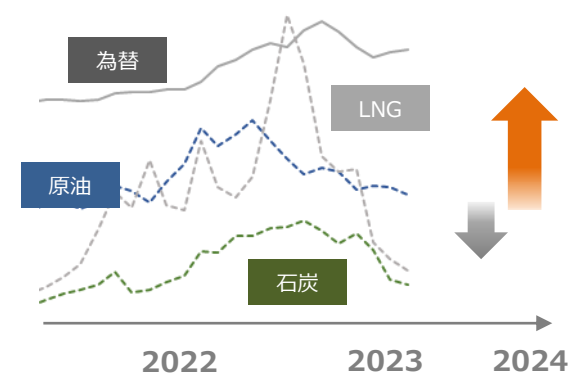
- エネルギー事業を取り巻く環境の著しい変化を踏まえ、事業戦略の再構築を行った

卸電力市場の変動(東京プライス)



化石燃料価格変動

2022年度は、2021年4月比で原油は約2倍、石炭：5倍、LNG：3倍、為替：1.2倍で推移



- 変化に対し、エネルギーベンチャー企業として「挑戦とスピード」をもって対処
- グローバルな脱炭素への貢献をゴールとした再構築を推進

- 海外成長戦略の準備期間を経て、2030年に売上高5,100億円/経常利益250億円を目指す

アジア圏での社会貢献
グローバルな排出権取引
燃料による競争力創出

海外成長戦略への準備期間

売上高 2,787 億円
経常利益 146 億円

売上高 5,100 億円
経常利益 250 億円

FY2030/TARGET

強守と展開

- 小売料金の見直し、DR・コーポレートPPAへの注力
- 発電・燃料一体の徹底的な効率化
- 高効率大型バイオマスPJ、トランジション事業の推進
- ハウジャンバイオ/台湾PV/カンボジア水力の運開

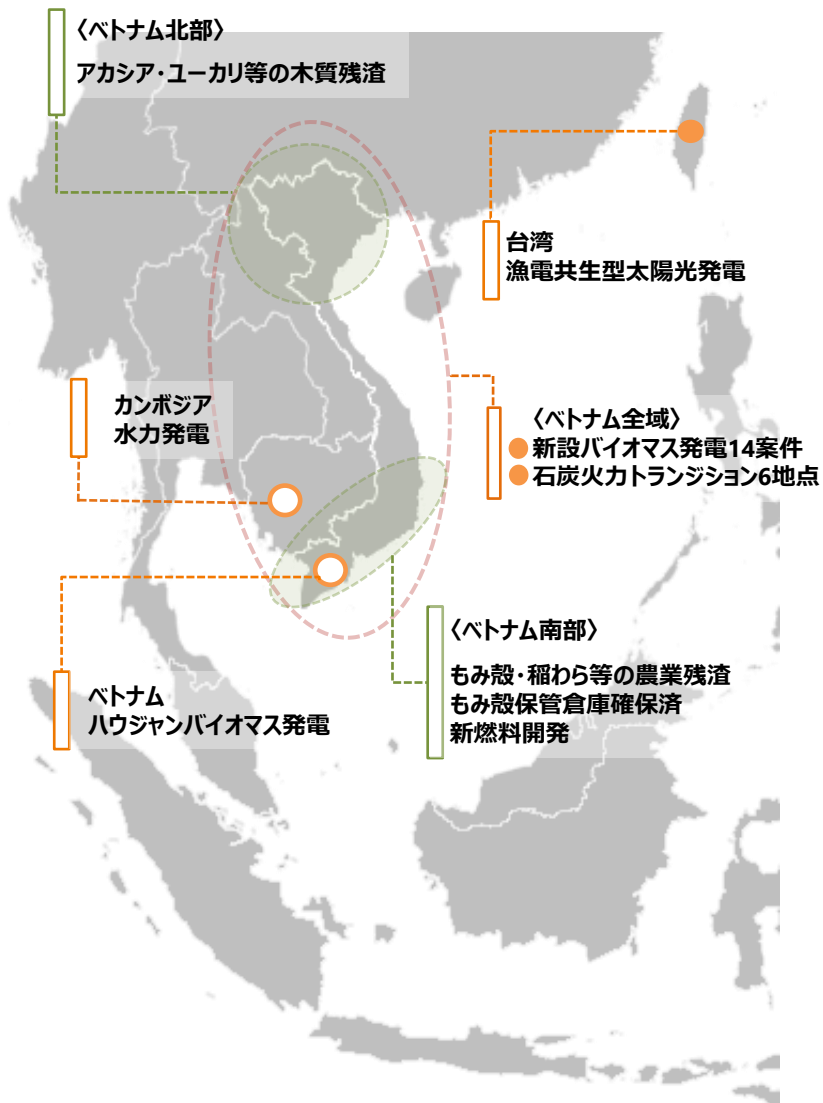
国内外ともに成長

- ベトナムPJ各発電所の運開
- バイオマス新燃料による競争力創出
- エネルギー課題解決を他国に展開

2. 新中期経営計画

(単位：億円)	'24.3月期 通期累計	'25.3月期 通期累計	'26.3月期 通期累計	'31.3月期 通期累計
売上高	2,280	2,423	2,787	5,100
営業利益	77	77	129	-
経常利益	75	90	146	250
純利益*	44	61	95	-

*親会社株主に帰属する当期純利益



燃料

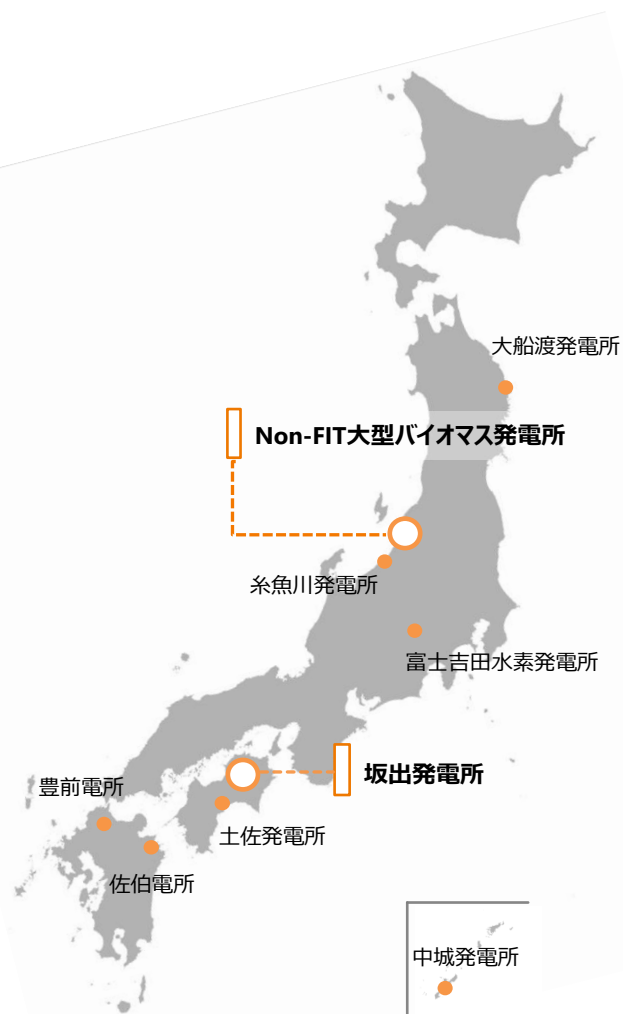
- ベトナム等アジア諸国で未利用バイオマス燃料活用を推進中
- バイオマス燃料加工用のペレット工場の建設を計画中
- ニューソルガム等の新燃料開発を継続

発電

- ハウジャンバイオマス発電所基礎工事進捗中(PDP7)
- 2023年5月中にベトナム政府が第8次電源計画(PDP8)を承認予定
- カンボジア水力 川の迂回トンネル等を建設中
- 台湾太陽光 EPCに向け準備中

案件名	所在地	発電方法	売電	規模	完成時期
ハウジャン発電所	ハウジャン省	バイオマス	FIT	20MW	建設中 (2024年完成予定)
ベトナム 新設発電所14案件	複数地点 (12省)	バイオマス	-	1,060MW	建設計画中 (PDP8申請中)
石炭火カトランジション	複数地点 (6地点)	バイオマス	-	1,585MW	計画中 (PDP8申請中)
カンボジア 水力発電所	ポーサット州	水力	FIT	80MW	建設中 (2025年完成予定)
台湾 魚電共生型太陽光発電所	彰化県芳苑郷	太陽光	-	55MW	建設計画中 (2024年完成予定)

- 建設中
- 計画中



○ 建設中(建設計画中)
● 運転中

燃料

- 燃料調達費の為替予約、船舶燃料の先物予約することでコスト低減を図る

発電

- 糸魚川発電所 バイオマス燃料の混焼を実施(24.3期上期実施予定)
- 石炭火力トランジションのM&Aに向けた協議を加速
- 国内バイオマス発電所の定修調整により、稼働日数を増やすことで収益増を計画
- 水素発電所 実証運転継続実施。水素の事業化に向け検討中

案件名	所在地	発電方法	売電	規模	完成時期
土佐発電所	高知県高知市	バイオマス	FIP	20MW	運開済(2013年)
佐伯発電所	大分県佐伯市	バイオマス	FIT	50MW	運開済(2017年)
豊前発電所	福岡県豊前市	バイオマス	FIT	75MW	運開済(2020年)
大船渡発電所	岩手県大船渡市	バイオマス	FIT	75MW	運開済(2020年)
国内 中城発電所	沖縄県うるま市	バイオマス	FIT	49MW	運開済(2021年)
富士吉田発電所	山梨県富士吉田市	水素	-	0.3MW	運開済(2022年)
糸魚川発電所	新潟県糸魚川市	石炭火力	-	149MW	譲受済(2022年)
坂出発電所	香川県坂出市	バイオマス	FIT	75MW	建設中(2025年完成予定)
大型バイオ	新潟県聖籠町	バイオマス	Non-FIT	300MW	アセス中(2029年完成予定)

小売 トレーディング

- 高圧・低圧ともに利益重視の戦略を継続
- 相対取引・JEPX取引を柔軟に活用し調達価格の低減を行う

Non-FIT大型バイオマス発電所(国内)

- 環境アセスメントにて、分析に一定期間が必要な指摘事項が生じたことなどからプロジェクトのスケジュールを変更
- 本事業の実現によって、FIT 制度終了後も国内にバイオマス発電が存続することが可能となり、国民負担の軽減にも大きく貢献

	変更前	変更後
本体工事着工時期	2023年度中	2026年度
営業運転開始(予定)	2026年度	2029年度

事業概要	
建設予定地	新潟県北蒲原郡聖籠町
設備出力	300MW(世界最大級)
発電方式	超々臨界圧再熱方式
想定年間発電量	約2,000GWh
燃料使用量	約120万t/年
CO ² 削減量	年間100万t相当
事業区域面積	約47万㎡

水素事業 (国内)

- 2022年4月より実施している水素発電の実証運転を引き続き継続
- 事業化に向け検討中

事業概要	
所在地	山梨県富士吉田市
発電方式	水素専焼エンジン (ドイツ製)
発電出力	320kW (約80世帯分)
発電効率	40%

魚電共生型太陽光発電所(台湾)

- 養殖池の上に太陽光パネルを設置し、漁業と発電事業の共生を図る手法
- 台湾政府は2025年までに同手法で4GWの導入を目指す
- EPCに向け準備中

事業概要	
発電所所在地	彰化県芳苑郷王功段 (台湾)
事業会社名称	鼎龍能源科技股份有限公司
発電容量	約55MW
売電期間	20年間

ereX